

12. 手根管症候群質問票 Carpal Tunnel Syndrome Instrument (CTSI) 推奨グレード A

手根管症候群質問票（以下、CTSI）は、手根管症候群の症状重症度と機能状態を評価するための疾患特異的な患者立脚型評価であり、症状重症度尺度(SS)と機能状態尺度(FS)の2つのサブスケールから構成されている¹⁾。CTSI-SSは、手根管症候群の疼痛（3項目）、知覚（1項目）、しびれ（1項目）、脱力感（1項目）、夜間症状（4項目）、および総合的な機能状態（1項目）の11項目で構成されている。質問は選択式で、1点（症状なし）から5点（最も重篤な症状）までの点数で評価され、全ての重症度スコアは、11項目のスコアの平均値を算出する¹⁾。CTSI-FSは、手根管症候群で一般的に影響を受ける8つの機能的活動で構成され、回答は1点（困難でない）から5点（きわめて困難）までの点数で評価される。機能状態の総合スコアは、8項目全ての平均値を算出する¹⁾。CTSIは、信頼性、妥当性、反応性について良好なエビデンスがある²⁾。日本語版として開発されたCTSI日本手外科学会版（以下、CTSI-JSSH）も、十分な信頼性、妥当性、反応性を有している¹⁾³⁾⁴⁾。なお、CTSI-JSSHは手根管開放術後の臨床的变化に対してDASHやSF-36よりも感度が高いことが報告されている⁴⁾。

引用文献

1. Imaeda T, Uchiyama S, et al. Validation of the Japanese Society for Surgery of the Hand version of the Carpal Tunnel Syndrome Instrument. *J Orthop Sci* 12: 14-21, 2007.
2. Leite JC, Jerosch-Herold C, et al. A systematic review of the psychometric properties of the Boston Carpal Tunnel Questionnaire. *BMC Musculoskelet Disord* 20; 7: 78, 2006.
3. 今枝敏彦, 藤哲, 他. 日本手外科学会版 DASH, QuickDASH と手根管症候群質問票 (CTSI) の計量心理学的評価. *日整会誌* 83: 893-899, 2009
4. Uchiyama S, Imaeda T, et al. Comparison of responsiveness of the Japanese Society for Surgery of the Hand version of the carpal tunnel syndrome instrument to surgical treatment with DASH, SF-36, and physical findings. *J Orthop Sci* 12: 249-253, 2007.